

令和2年度静岡県定置漁業協会総会

—クロマグロの資源管理の取組み—

令和2年5月22日、いとう漁業協同組合にて令和2年度静岡県定置漁業協会総会が開かれました。

総会の後に記念講演を行うのが、通常でしたが、今年は新型コロナウイルス感染防止を考慮して、初の書面決議による開催となりました。当日は新旧の役員のみでの参加とし、マスク着用、アルコール消毒の実施、身体的距離をとっての着席と、異例の開催となりました。

その中で、クロマグロの資源管理について、定置漁業では第5管理期間（平成31年4月1日～令和2年3月31日）に約9,700尾、重量にして約20トンの小型魚を放流する取組みが行われ、その結果定置漁業の割当を守ることができたことが報告されました。この取組みを踏まえ上で、第6管理期間（令和2年4月1日～令和3年3月31日）における取組みについて話し合いが行われました。各漁場からは、同時に漁獲される魚種によってクロマグロが判別しにくく、2kgサイズでも混獲されてしまうことや、他の魚種が多く漁獲されると網からすくっている間に死んでしまうことなどが情報として出されましたが、漁獲割当を超えるわけにはいけないという意見が多く出され、協会としては1漁場1日当たりの漁獲量を200kgまでとし、体重5kg以下は再放流することを決定しました。

また、クロマグロの資源管理を一層進めるために、さばすくい網漁業で用いられている、水中の抵抗が低く、軽くて扱いやすい網をベースに小型魚の放流用のたも網を作製して試験運用することや、先進的な技術の開発・導入を進めている他県の定置網漁業を視察することが協議されました。



(伊藤 円)